

ショートコメント vol.95 (2018年2月26日)

テーマ：外国人の人口移動は大都市圏が「出し手」
～東京、大阪ともに外国人は転出超過～

●外国人の移動状況

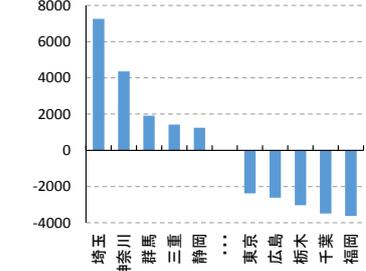
総務省「住民基本台帳人口移動報告」の2017年の結果をもとに、日本で暮らす外国人の都道府県別移動状況を見ると、日本人の移動とは大きく傾向が異なる。日本人の移動では、転出超過の1位は東京で、2位を大きく引き離している。

図表1は、外国人の転入超過数の上位5位と下位5位をまとめたものであるが、1位が埼玉の7,258人、2位が神奈川の4,359人、3位が群馬の1,915人となっている。

注目されるのは、下位に東京、福岡、千葉など、意外な顔ぶれが並んでいることである。日本人の移動では転入超過であるこれらの都県が、外国人では大幅な転出超過となっている。

ちなみに東京の転出超過先をみると、埼玉、千葉に対する転出が目立つなど、首都圏内での移動が中心である(図表2)。

【図表1】 外国人の都道府県別・転入超過数 (2017年、上位5県/下位5県)



(出所)総務省「住民基本台帳・人口移動報告」、以下同じ

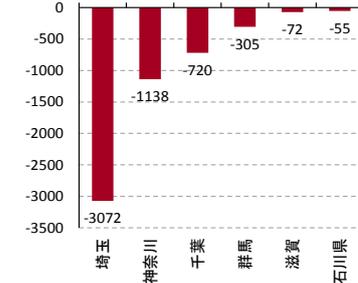
●関西の各府県の状況

一方で関西は、大阪、奈良を除いて転入超過となっている(図表3)。関西でもっとも転入超過の規模が大きいのは兵庫の710人であり、これは全国でも第9位に相当する。それに京都の234人(17位)、和歌山の201人(18位)が続く。

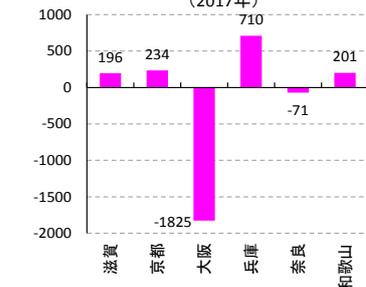
兵庫が転入超過となっているのは、大阪、岡山、千葉、広島などであり、広域からの転入がみられる(図表4)。特に、岡山や広島など、中国地方の多い点の特徴といえよう。

なお、和歌山が転入超過となっているのは大阪、兵庫、奈良であり、兵庫のパターンとは違って関西圏内での移動が多い。

【図表2】 東京の外国人・転出超過先 (2017年、主な6県)



【図表3】 関西の外国人・転入超過数 (2017年)

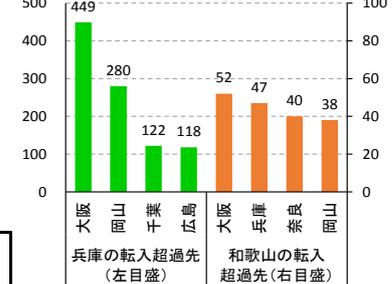


●外国人の移動では「出し手」の大都市圏

現状は外国人の移動について、強いトレンドは見出しにくいものの、地方から大都市圏に向けた移動が多いわけではない。この点は、ひとまず朗報といえよう。東京、大阪、福岡などが転出超過となっている点を見れば、現時点では、大都市圏がどちらかといえば「出し手」になっているとも表現できる。

この動きが定着すれば、地方圏にとっては、日本人の転出超過によるマイナスを補う効果も期待されるだけに、今後の動きには引き続き注目が集まろう。

【図表4】 兵庫、和歌山の外国人・主な転入超過先 (2017年)



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。